

会 議 録

1 会議名

第2回上越市青少年健全育成センター運営協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 青少年健全育成センター事業の進捗状況（4月～9月）（公開）
- (2) 若者支援事業の進捗状況（公開）
- (3) 情報交換（公開）
- (4) その他（公開）

3 開催日時

令和3年10月15日（金） 午後1時30分から

4 開催場所

上越市教育プラザ研修棟3階 大会議室

5 傍聴人の数

1名

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：小林秀智，山田 稔，伊藤大助，井部佐恵子，関川正樹，山本克志，
阿部利夫，小林 榮， 小山貞榮，古川美也子，本間久美子，
鈴木真理子，大堀みき，吉岡智宣
- ・事務局：青少年健全育成センター 曾我所長， 池田指導員，山崎指導員

8 発言の内容（要旨）

- (1) 青少年健全育成センター事業の進捗状況（4月～9月）（公開）
 - ・事務局より資料1～4に基づいて説明（資料参照）
 - 資料1 令和3年度運営方針、活動事業計画（資料P1～2）
 - 資料2 街頭指導の実施状況（資料P3～5）
 - 資料3 特別街頭指導の実施状況（資料P6）
 - 資料4 PTA一日街頭指導の実施状況（資料P7）

<質疑>

吉岡委員：街頭指導でたばこの吸い殻が落ちているとあるが、たむろしている人が実際に吸っていたと考えているか。たばこは値上がりして、収入のある人しか吸えないのではないか。就職している人が吸っているのではないか。

事務局（曾我所長）：昨年度もたばこの吸い殻が落ちていた。今年度多くなった感じがする。吸っているところを注意することはないが、それらしい様子には遭遇する。見た感じだが、高校生が吸っていると思われる。昨年度はなかったが、今年度6月の喫煙数は「3」となっている。ジベタリアンも増えている。コロナウイルス感染者数が減って、外出が増えたことが影響していると思われる。

山本委員：駅前、立体駐車場でたむろしているという話があり、上越警察署として確認しに行っている。コロナウイルスが感染拡大し、部活がなかった時には、午後4時半頃、大勢集まり、2階に上がっているとの情報があって見に行った。捨ててあったのは分からないが、持っていたり、吸っていたりする子がいた。警察に苦情が来ることもあるが、見に行くといなくなっている。学校の先生にも来てもらったことがある。その後は少なくなった。一週間続けたが、今後は不定期に見に行こうと思う。不良行為少年補導状況として、バイクでの深夜徘徊が増えている。かなりの通報がある。駅前でたむろしているので声を掛けているが、最近では河川敷を走っているとの苦情が来て対処している。

小林榮委員：高校側から意見はあるか。

伊藤委員：常時教員が見回るわけにはいかないが、情報が入れば校内で指導できる。

・事務局より資料5～7に基づいて説明（資料参照）

資料5 育成委員協議会研修（資料P8）

資料6 環境浄化活動・立入調査（資料P8）

資料7 健全育成活動（社会を明るくする運動）（資料P9）

<質疑>

なし

(2) 若者支援事業の進捗状況（公開）

・事務局より資料8に基づいて説明（資料参照）

資料8 若者育成支援事業（資料P10～13）

<質疑>

小林秀智委員：「上越市親の会」において、悩みの対象となる子どもは、小・中・高それぞれいるか。その割合を教えてください。

事務局（曾我所長）：毎回決まった方が参加するのではないので、割合はそのつど変わる。小・中・高の保護者、皆いるが、小・中が多い。

事務局（山崎指導員）：今年度は特に中学生が多い。

本間委員：報道によると、子どもの自殺者が415人、不登校19万人、新潟県の不登校3112人である。青少年健全育成センターは「Fit」の力を活かしてほしい。

事務局（曾我所長）小・中の不登校について市教育センター鈴木委員が詳しいので、説明してほしい。

鈴木委員：小・中ともに不登校は増えている。特に中学校が多い。教育委員会学校教育課教育センターが協力し対応している。

大堀委員：「若者支援者研修」は、若者の支援活動に携わっている人の研修となっているが、研修後、何かに携わることになるのか。

事務局（曾我所長）：この研修は、「ユースアドバイザー研修」という名称でスタートしている。研修を受けた後、「Fit」のサポーターとして携わっていただこうと考えていたが、それには至らなかった。そこで、「若者支援者研修」と改名した。研修後、何らかの仕事に携わっていただくことは考えていない。研修で学んだことを今の持ち場で活かしてほしい。将来的にどういう研修会にするか、今後考えていく。

井部委員：「上越市親の会」2回目までは、悩みの内容について掲載されているが、3回目は統計を取っていないのはなぜか。

事務局（山崎委員）：終了後、参加者は「振り返り」を書いている。2回目ま

では、悩みの内容を書いてもらっていたが、山岸カウンセラーから、「参加されてみて、どう気持ちが変わったか」という気持ちの変容を書いていただいた方がいいとの助言を受けて、「振り返り」用紙の形式を変更した。

事務局（曾我所長）：悩みの内容はだいたい変わりなかったのも、悩みの内容を問わなくなった理由である。

山田委員：相談内容で「就労」が多いが、どのようなものか。実際に社会に一步踏み出すための取組はあるのか。また、中学校として、こうしておけばよいという助言があれば教えてほしい。

事務局（曾我所長）：青少年健全育成センターが直接就労先を探すのではなく、就労につながる気持ちを育てている。「Fit」に通うことで、若者は社会へ一步踏み出す気持ちをつくっていく。若者サポートステーションやハローワークにつながるための準備をする。中学校段階では、発達障害等で医療が必要な若者を医療につなげてほしい。大きくなってからでは難しい。

事務局（山崎指導員）：不登校となった場合、誰かつながっている人がいるとよい。その誰かが外部と本人をつなげてくれるからである。おじいさんでもおばあさんでもよい。ずっと伴走し、孤立しないようにして、社会と接点があるようにするとよい。

事務局（曾我所長）：19～25歳の「Fit」利用者が多く、この若者たちは就労段階でつまづいてしまっている。現在家にいるが、社会に一步を踏み出せない。発達障害があり、これまで何とかやってきたが、社会に出ると挫折してしまう。自立することが大きな問題となっている。

(3) 情報交換（公開）

事務局（曾我所長）：高校にはカウンセラーが配置され、支援が充実してきているのではないか。

伊藤委員：カウンセラーは週一回来ている。新聞に掲載されたが、生徒の自殺リスクを把握するアプリ「RANPS（ランプス）」を活用している。県教委が推奨している。生徒が心と体の健康をチェックするため、保健

室のタブレット端末で簡単な質問に答え、オンラインで集計され、リスクが高いときは、管理職に伝わるようになっている。普段見えないリスクをケアすることができるようになる。さらに詳しく本人から話を聞いたうえで、保護者とも相談している。

鈴木委員：上越市内小・中でタブレット活用が始まっている。不登校で顔が見られなかったが、タブレットで話ができたり、学習課題ができたりと通信できるようになった。塾やフリースクールに参加することによって、登校にカウントすることもある。子どもがいろいろな活動で力をつけていってほしい。子どもも保護者も不登校で切ない思いをしているが、いろいろな学習スタイルがあって力を付けたり、社会性を身に付けたりと充実してきている。このことを保護者に説明していく。

小林榮委員：小・中でタブレットが配られて、学校での教育が変わってきた。学校での取組はどうか。

小林秀智委員：小1からタブレットを使った授業をしている。利用マナーが一番問題となる。SNSで犯罪に巻き込まれたり、いじめが起こったりしている。情報モラルをしっかり指導していこうと確認し合っている。

山田委員：上越市では今月中にはタブレット持ち帰りを試行することになっている。当校は今日持ち帰りである。マナーを確認し、Wi-Fiをつなげられるかを確認した。臨時休校の時、利用できる体制をつくっている。不登校の生徒とのオンライン授業もできるだろう。先ほど出た自殺リスクのチェックのような使い方もできるとよい。

小林榮委員：ご家庭の事情があり、親の対応力によって違ってくる。地域、家庭へのアプローチはどうしているか。

山田委員：市教委では貸し出しルーターを用意しているが、通信料は安いものでも1,500円かかる。保護者に無理にお願いできない。可能なら試行してくださいと伝えた。無理のないようにしている。臨時休校の時その家庭には別の対応をする。つながらなくても、持ち帰る前にタブレットにデータを入れ、子どもが学校に来た時に通信して学習するなどの方法がある。今後学習ツールとしての使い方を探っていく。

小林榮委員：親の戸惑いはないか。

山田委員：担任がやり方を説明している。

小林秀智委員：学校によっては、保護者向けのマナー講座を行っている。保護者への啓発も必要と考えている。

小林榮委員：親も変わっていかないといけない。民生委員児童委員の方ではどうか。

井部委員：これまで学校訪問させてもらってきたが、今、学校には入れない状況である。

小林榮委員：子どもの学習について、分からない時は、おじいちゃん、おばあちゃんに聞いてと言えない時代になった。PTAの方はどうか。

古川委員：昨年度、今年度と活動できていない。困っていることについてワークショップを計画したが、コロナウイルスが流行ったため、中止になってしまった。横のつながりが手薄になってきた。

伊藤委員：4月～5月の街頭指導など、学校が校外指導を行うのは難しい。4月に行った街頭指導の情報を学校に伝えているか。情報を私に入れてもらえば、他校には私が伝えられる。

事務局（曾我所長）：伊藤先生が生徒指導に関する事務局か。

伊藤委員：はい。

事務局（曾我所長）：青少年健全育成センターだより『愛育』を年3回お届けしているが、今後はすぐ情報を伝えるようにしたい。

小林榮委員：必要な情報は早い方がよい。青少年健全育成センターの業務の見直しになるが、組織や体制的に限界があるということはないか。

事務局（曾我所長）：街頭指導は55名の育成委員がやってくさっている。一方、若者育成支援の方は、「できそうな活動を始めよう」とやり始めた段階である。センター職員は3人しかいないので、その範囲でできることをやっている。もっとやらなければいけないのであれば、外部に協力してもらおうことも考えたい。これはもう行わなくてもいいということは精選していきたい。

小林榮委員：行政上遠慮している点があるのではないか。

事務局（曾我所長）：例えば、若者育成支援進路研修は各中学校の進路説明会

で通信制高校の説明をやっていただければ、青少年健全育成センターが行わなくてもよいと考える。実際に実施する学校も出てきているので、今後、中学校と相談したい。

(4) その他（公開）

なし

9 問い合わせ先

上越市教育委員会社会教育課 青少年健全育成センター

TEL : 025-544-4690（内線 3003）

E-mail : keniku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。